害反応

GLP-1 作動剤による大腸内視鏡検査の失敗

Prescrire Int. Mar. 2026 Vol.35 No.279 page77（翻訳と解説は本誌）

セマグルチド（日本での商品名:オゼンピック®、ウゴービ®、キーンス® 他）などのGLP-1 受容体作動剤クラスのインクレチンミメティクスは、胃内容物の排出と腸管通過を遅らせます [1]。遅れることで、手術などで患者が麻酔中である場合に胃の内容物を誤嚥するリスクや、上部消化管を内視鏡検査中に胃内容物（残存物）が見えて検査がうまくできないリスクを高めます [2]。系95% 信頼区間 1.4 ～ 3.1)。分析を糖尿病患者 5,585 人に限定した場合でも、この結果は、統計的に有意でした（オッズ比 1.9、95% 信頼区間 1.2 ～ 3）[3]。

腸管前処置が不十分だと、大腸内視鏡検査を繰り返さなければならない場合が多くなります。腸管前処置が不十分になることを防ぐため、GLP- 1 作動剤が肥満や糖尿病の治療に使われる場合、大腸内視鏡検査の前に、

★参考文献★

P63

害反応

GLP-1 作動剤による大腸内視鏡検査の失敗

Prescrire Int. Mar. 2026 Vol.35 No.279 page77（翻訳と解説は本誌）

参考文献（詳細版）

1) Naim Abu-Freha et al. Glucagon-like peptide-1 receptor agonists significantly affect the quality of bowel preparation for colonoscopy. Endoscopy 2025 Feb;57(2):126-133. doi: 10.1055/a-2419-3875
2) Jasmin Elkin et al. Association between glucagon-like peptide-1 receptor agonist use and peri-operative pulmonary aspiration: a systematic review and meta-analysis. Anaesthesia. 2025 Jul;80(7):846-858. doi: 10.1111/anae.16601.
3) 薬のチェック編集委員会、GLP-1 作動剤「リラグルチド」薬のチェック、2016：16（67）：108-112
4) 薬のチェック編集委員会、肥満症用GLP-1作動剤：セマグルチド（ウゴービ®）ー害作用が多すぎる、使用すべきでない、薬のチェック2023: 23(109): 108-111
5) 薬のチェック編集委員会、肥満症用剤ウゴービ®は自殺を増やす　薬のチェック 2024：24(112)：38-42